

不定愁訴と漢方

臨床 § 症候

峯 尚志

不定愁訴：unidentified complaints,functional symptoms

不定愁訴とは

全身倦怠感、めまい、頭痛、動悸、下痢など自律神経系の関与が強く考えられる
身体的愁訴は不安定で消長しやすい客観的所見に乏しい

不定愁訴患者の特徴

1. 訴えが主観的、他覚的・客観的所見に乏しい
2. 訴えは強い
3. 多彩
4. 質的・量的に変化しやすい

診断のポイント

1. 器質的疾患、精神病を否定
2. 背景が「抑鬱」か、「不安」か
3. 自律神経系の状態



不定愁訴として出現しやすい身体症状＝不定愁訴症候群

A. 全身的

全身倦怠感、易疲労感、ふらつき感、めまい感、熱感、睡眠障害、性欲障害

B. 神経筋骨格系

頭痛、頭重、肩凝り、背腰痛、しびれ感、振戦、セネストパチー

C. 心・循環系

のぼせ、動悸、胸痛、苦悶感、四肢熱感・冷感

D. 呼吸器系

呼吸促迫、息切れ、息苦しさ、喉頭閉塞・異物感、咳

E. 消化器系

食欲不振、かわき、悪心嘔吐、胃部不快、腹痛、膨満、便秘／下痢

F. 皮膚泌尿器系

発汗、寝汗、かゆみ、乾燥、頻尿、排尿困難

G. 生殖器系

インポ、月経障害

H. その他

眼精疲労、耳なり 精神症状：不安、緊張、焦燥、抑鬱、心気、集中困難、意欲低下、記憶力低下

不定愁訴を呈しやすい疾患

- 1 不安神経症
- 2 身体化障害(somatization)
身体的異常(-)、身体症状(++)、例：転換型ヒステリー、若年発症、慢性化
- 3 起立性低血圧
めまい、立ちくらみ、動悸が主体、薬剤性に注意、起立試験立位負荷
- 4 仮面うつ病
早朝覚醒、食欲不振、抑うつ気分、抗うつ薬有効
- 5 本態性自律神経失調症
- 6 精神科疾患

自律神経失調症

自律神経失調症は日本では不定愁訴症候群の別の表現である。

医学のあゆみ185(12):909-912,1998によると

自律神経失調症は昭和39年薬業界の広告から始まった。

身体的症状がないのに愁訴が多いケースに用いられた。

純然たる自律神経失調症は極めてまれ。

自律神経失調症の病名は下記の表の精神疾患に置き換えられる。

表「いわゆる自律神経失調症」に含まれる主な精神疾患（ICD-10）

F 4 5 身体表現性障害

- 身体化障害
- 鑑別不能型身体表現性障害
- 心気障害
- 身体表現性自律神経機能不全
- 持続性身体表現性疼痛障害

F 4 1 他の不安障害

- パニック障害
- 全般性不安障害
- 混合性不安抑うつ障害

F 3 2 うつ病エピソード

- 軽症うつ病エピソード（身体性症候群をともなうもの）
- 他のうつ病エピソード（特定不能の「仮面」うつ病の単一エピソード）

東洋医学的問診

現病歴

既往歴

家族歴

現在飲んでいる薬

サプリメント

食事

飲み物

大便

小便

睡眠

気分、精神状態

生活状態

全身状態



東洋医学の立場では病んでい
る患者さんがいるだけであっ
て、不定愁訴という考え方は
ない

不定愁訴といわれている多くの症状は
現在の患者さんの状態をあらわす大事
な信号



治療者にとっては患者さんが
先生

患者さんからの信号をどう受
け取れるか

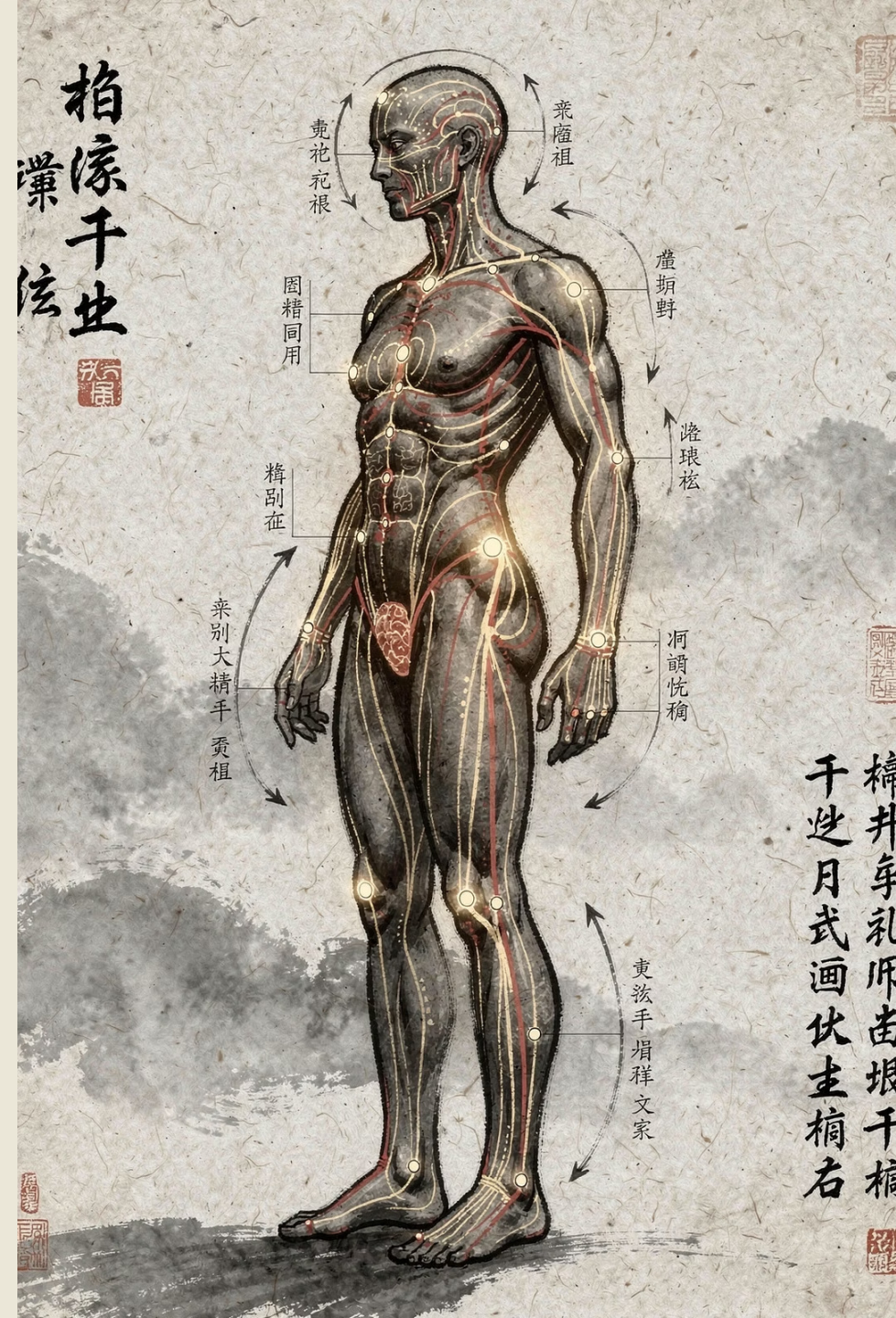


病名には魔力がある

- 癌という言葉は不治の病という価値観を伴っている。
- 不定愁訴といわれると、医者にかかってはいけないような雰囲気。医者の方もやっかいな患者さんという価値観。
- 自律神経失調症といわれて、治る見込みのない病気と思い、絶望する人もいる。
- 逆に原因不明と言われた病態に、病名を与え、病気の成り立ちと治療プランを示せば大きな勇気付けになる場合もある。



東洋医学的診断 気血水并証から見た診断



気虚証

生命エネルギーである気が不足している状態

身体がだるい

疲れやすい

気力がない

動きたがらない

口数が少ない

息切れがする

横になりたがる

昼間眠たく

夜眠りにくい

食欲がない

風邪をひきやすい

下痢傾向

血虚証

顔色が青白い

目が疲れやすく、かすむ。

動悸がする。

眠りにくい。

手足が痺れる。

経血の量が少なくなる。

月経周期が遅れる。

舌質淡

脉細無力。

血瘀証 血行が停滞するために生じる症候

針や刀で刺したような疼痛。

部位は固定性

拒按（押さえると不快でいやがる）

塊がある。

顔色は黒ずんでいる。

唇や爪が紫色になる。

皮膚は青紫や黒ずんだりする。

月経血の色は黒く、塊を伴う。

舌質紫、暗。

あるいは瘀斑がある。

脉澹。



医者一役者一芸者 どうとらえどう治すかは 一種のアート

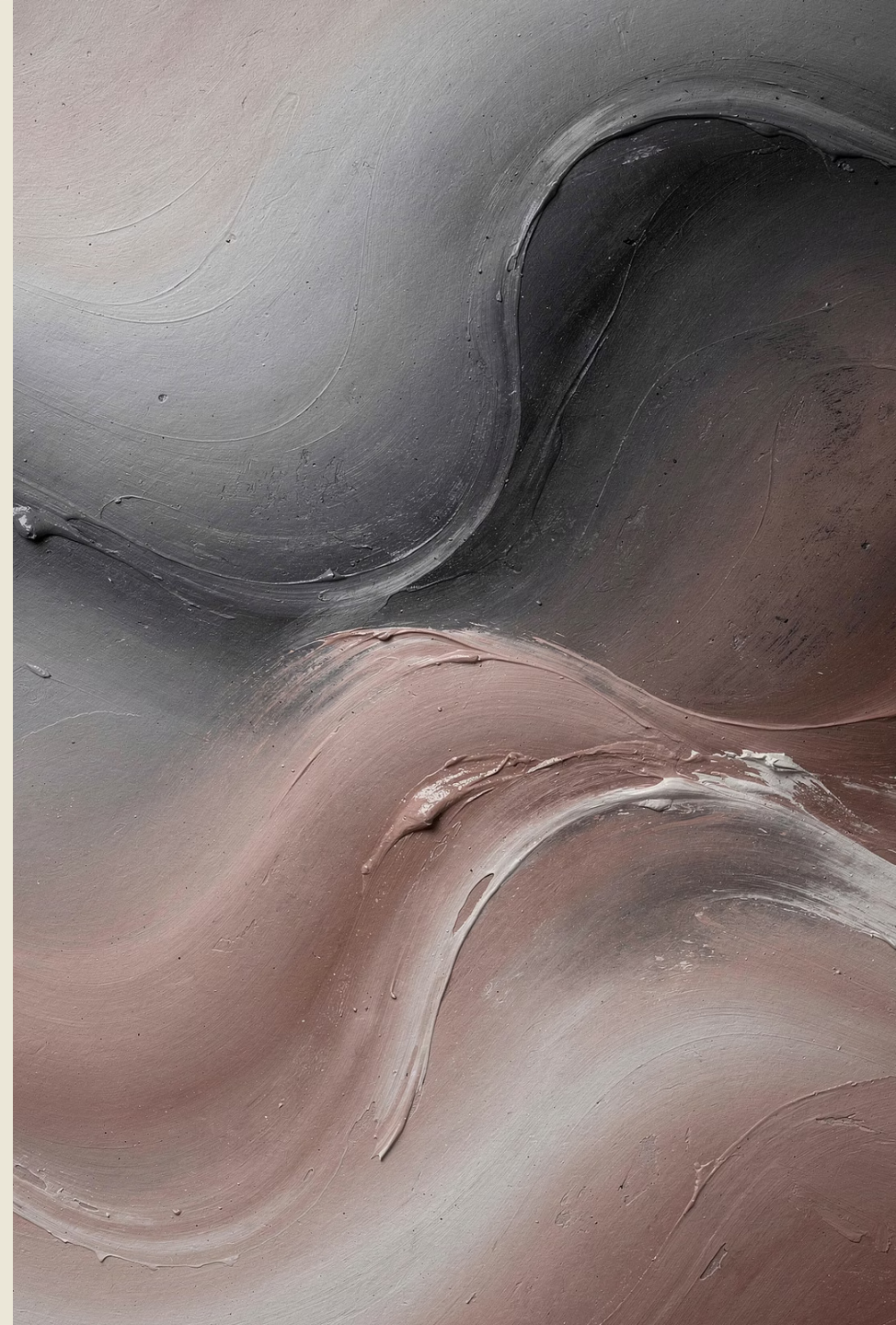




普遍的なものと具体的なこと — 回きりの出来事 主観的なことと客観的なこと

この世界が灰色に見える。それともばら色？
主観的な情報もきわめて重要。

（認知の状態をあらわす）





病人さんの訴えをよく聴く ラポールの形成



病名があるものでも不定愁訴
でも人間（病む人）である以
上、共通の治療的アプローチ
がある



勝負は初診にあり

血虚、血瘀証の症例

- 34歳、女性。二児の母
- 頭がボーとして何も考えられない。
- 2歳と、4歳児の母、専業主婦。二人目の出産時多くの出血があり。輸血した。産後より体調がすぐれず、疲れやすく、めまいがする。目がかすんで雑誌を読むのもつらい。頭がボーとして何も考えられなくなる。内科の血液検査では貧血もなく、特に異常はないといわれる。眼科でも異常なし。友人に勧められて当院受診。

経過

顔面は青白く正気がない。脉は細弱。舌は淡白紅色。苔は少量、白い。腹部は特に下腹部が軟弱で産後二年たっているのに柔らかく、力がないが臍下部に抵抗がある。爪の色が白い。目の周りが黒い。眠りが浅く、時々、動悸がする、手が痺れる感じがする。以上の所見より、芎歸調血飲エキス 6 g 分 3 で処方する。服薬二週間で目の疲れが改善した。4 週間後には頭がはっきりしてきて、物事を考えることができるようになった。夜もぐっすりと眠れるようになり 3 ヶ月で略治、廃薬となる。

芎帰調血飲

- 当帰、芍薬、川芎、地黄、白朮、茯苓、陳皮、烏薬、香附子、乾姜、益母草、牡丹皮、甘草、大棗、生姜。
- 産後で気血が消耗して、瘀血残留による多彩な症状に用いる。
- 気血が不足して、疲れやすい、目がかすむ、頭痛、月経不順、ノイローゼ。

症例 7才、男児

現病歴

乳児の頃よりアトピー性皮膚炎あり。年中より悪化。近医皮膚科にてステロイド治療を受けるが、最近顔面が真っ赤に腫れ上がり、浸出液がでるため、平成18年5月25日、当院受診。

現症

皮膚病変は全身にみられるが、とくに顔面の紅潮が著明で、滲出液、苔癬化もみられ顔がパンパンに腫れて口が開けにくい。口内炎ができて食欲もなく、落ち込んでいる。最近痩せてきた。学校も休みがちである。視力が落ちた。夜尿はほぼ毎日。癩癧をしょっちゅう起こしている。

望診

- 投げやりな態度。
- ふてくされ
- 質問には答えず。
- （つらい、悲しい。友達に顔のことでいじめられる。）
- 気のめぐりをよくすることで大気一転をはかる。
- 最初がチャンスなんだけど。いい手が浮かばない。
- つかみそこなうと何年も苦しみが延長し、勇気がくじかれてしまう。

君はどんなものが好きなの？

「無言」

「サソリ」「えっ！他には？」

「恐竜」「、、、そ、そうかあ」

夜10時、院長玉造筋を歩く。遅くまで開いている
本屋に目を止める

ああ、この本やなあ。

これ下さい。

逆ざややなあ

こんな本が欲しかったんや
むっちゃうれしい！ラッキー！



6/17

柴胡清肝湯3.0g 分2 / 日



6/21



6/30

9/1 先生、こんなすごいやつ夜店で当たったで。
皮膚がよくなると運までよくなるんやなあ。
かっこよく写してや！





9/13
甘麥大棗湯で
ふわふわ気分だよ！

使えるものは、なんでも使え



恐竜のエネルギーを借りてみました。

柴胡清肝湯で過剰な熱をさまし

甘麥大棗湯でゆるめたら勝手に治ってくれました。

甘麥大棗湯

- (炙) 甘草 5、(浮) 小麦 20、大棗 6
- 効能) 養心安神、和中緩急
- 主治) 臈躁
- ぼんやりする、悲哀感があり、よく泣く。焦燥、眠りが浅い。あくびがよくでる。甚だしいと異常な言動をする。舌苔は少。脉は細。
- 五蔵の陰不足により心陰も虚し、神明を養うことができないのでぼんやりし、心神不寧となるために悲哀感、焦燥感、眠りが浅い、甚だしいと妄言やとりつかれたような所作が生じる。陰不足で陽気の宣発が不足するとあくびを連発する。普段には憂鬱、びくびくする、情緒不安定、睡眠不十分などがあり、急迫すると焦燥、悲哀、啼泣、言動異常などの発作的な症状があらわれる。

証に従って証に従わず 症例 32才、女性。薬剤師

主訴) 月経不順

二年前出産 一年間は授乳していたので生理なし。しかし授乳をやめても生理がなかなか発来しない。半年前より三回生理がきたが周期がバラバラで不安になり婦人科受診。卵巣機能が衰えてホルモンのアンバランスになっているといわれホルモン剤の投与を受けた。いつまでときくと当分という。このまま一生飲み続けるのかと不安になり来院

経過

- D「ところで手足は冷えますか」
- P「はい」
- D「普段の便通は」
- P「下痢も便秘もせずに普通だけど生理中は軟便になります」
- D「以前より疲れやすくなりましたか」
- P「はい」
- D「脈は沈んで弱いですね。舌は淡紅色です。腹部は胸脇部が軽く張っていますがおなかの力は弱いですね」
- さてここまで診察したところで温経湯という処方が選択されましたところが、、、

温経湯証のはずなんですが

どうしても温経湯を処方する気になりません

よくみると白目が赤いようです 東洋医学では目は肝の窓といわれます 肝は怒りなどの情動と関係の深い場所です 一見明るく快活な女性ですが何かありそうです

D「夜は眠れますか」

ハッとした顔で「あまり眠れないんです」と答えます 目から涙が溢れ出します

「我慢しなくてよろしいですよ 涙はつらいことも浄化する働きがありますからね」

「しっかりかくそうと思っていたのにバレてしまいました 子供が未熟児で生まれたものですから、子供が少し状態がおかしいと気になって眠れないんです。同時に子供に申し訳ないという気持ちになってしまいます。」

経過

まず加味逍遙散エキス合苓桂朮甘湯エキスを処方する。この処方の服薬2週間で、気分が落ち着き、安眠できるようになった。また生理も服薬2週間で正常に発来した。その後、温経湯エキスに変方し、以後半年間経過しているが28日周期で順調に発来している。

加味逍遙散

当歸 3、芍藥 3、柴胡 3、甘草 2、白朮 3、茯苓 3、生姜 1、薄荷
1、牡丹皮 2、山梔子 2

七情の乱れ

喜 心
気が緩む

怒 肝
気が昇る。のぼせ、血圧上昇。

驚 腎
気を乱す。気が動転する。

悲 肺
気を消す。気力の低下。

憂 肺
気がちぢむ。呼吸が小さくなる。

思 脾
気が塞ぐ。

恐 腎
気をくだす。恐ろしくて腰が抜ける。



おわりに

「不定愁訴」という言葉には、はじめから否定的な響きがある。わけのわからない、困った訴え——そう名づけた瞬間に、患者さんは心を閉ざし、こちらも身構えてしまう。けれど東洋医学に、その言葉はない。目の前にいるのは、ただ懸命に生きる一人の人であり、多彩な症状は、その人を映す信号にほかならない。えり好みせず、先入観をもたず、訴えをそのまま受け取ること——そこから治癒へのプロセスははじまる。漢方を学ぶことのほんとうの価値は、新しい処方をもとに覚えることよりも、患者さんの訴えをどう受け取るか、その受け取り方そのものにあるのではないか。偉ぶることなく、卑下することもなく、ただ目の前の人の声に静かに耳を澄ますこと——そんな医療を、これからも心がけたい。

